

川西市国民健康保険  
第2期データヘルス計画

中間評価

令和3年3月

川西市

## 目次

はじめに	1
第2期データヘルス計画における重点課題	1
第2期データヘルス計画における重点課題の中間評価と今後の方向性	2
課題1 特定健診受診率の向上・課題2 特定保健指導実施率の向上	2
特定健診未受診者への勧奨はがきの送付	3
特定健診未受診者への電話による勧奨	4
課題4 糖尿病性腎症重症化予防	5
糖尿病重症化予防プログラム(未治療者及び治療中断者に対する受診勧奨)	6
課題6 がん早期発見による重症化予防	7
がん検診受診勧奨	8

## はじめに

令和2年度は、第2期データヘルス計画（計画期間：平成30年度～令和5年度）の中間評価・見直しの年度となっています。中間評価・見直しにあたり、第2期データヘルス計画の策定時に川西市が設定した8つの課題のうち、国の保険者努力支援制度においても取組みを求められている4つの項目を重点課題として、設定した目標が達成可能かどうか、各課題の個別保健事業の実績等を振り返り、整理、評価を行います。評価の結果を踏まえて、目標達成が困難と見込まれる事業については、改善方法を検討の上、必要に応じて実施内容等の見直しを行います。

評価のなかで、「指標判定」「事業判定」については、A～Dの4つの区分により判定します。

※判定区分 A:達成できている B:達成できていない・改善が必要 C:事業継続が困難 D:評価不能

### 第2期データヘルス計画の中間評価・見直しのスケジュール



### 第2期データヘルス計画における重点課題

課題1	特定健診受診率の向上	特定健診の受診率は35%前後と横ばいであり、生活習慣病の早期発見・早期治療が遅れる可能性がある。引き続き、特定健診の受診率向上に向けた取り組みが必要である。
課題2	特定保健指導実施率の向上	特定保健指導の実施率がまだ低い水準であるため、生活習慣病の悪化の可能性がある。特定健診だけでなく保健指導を受けることの大切さを、市民に引き続き周知する必要がある。
課題4	糖尿病性腎症重症化予防	人工透析患者のうちⅡ型糖尿病起因の患者が存在する。早期に保健指導を行い生活習慣を改善することで、糖尿病性腎症の悪化を遅延させる必要がある。
課題6	がん早期発見による重症化予防	疾病別統計に目を向けた際、医療費総額、患者一人当たりの医療費ともに「悪性新生物<腫瘍>」が上位となっている。早期発見により重症化を予防することでがんにかかる医療費を減少させていく必要がある。

## 第2期データヘルス計画における重点課題の中間評価と今後の方向性

### 課題1 特定健診受診率の向上・課題2 特定保健指導実施率の向上

	1 特定健康診査	2 保健指導
目的	生活習慣病の早期発見	生活習慣病の重症化予防
課題	【特定健診受診率の向上】特定健診の受診率は35%前後と横ばいであり、生活習慣病の早期発見・早期治療が遅れる可能性がある。引き続き、特定健診の受診率向上に向けた取り組みが必要である。	【特定保健指導実施率の向上】特定保健指導の実施率がまだ低い水準であるため、生活習慣病の悪化の可能性がある。特定健診だけでなく保健指導を受けることの大切さを、市民に引き続き周知する必要がある。
内容	【対象者】 実施年度中に40歳～74歳になる被保険者（実施年度中に75歳になる75歳未満の者も含む。） 【実施場所】 川西市保健センターおよび委託契約を結んだ医療機関で実施する。 【実施時期】 4月から翌年3月に実施する。	【対象者】 国が定める「特定保健指導対象者の選定基準」に基づき、特定健康診査の結果を踏まえ、内臓脂肪蓄積の程度とリスク要因数による階層化を行い、対象者を選定する。（服薬中と判断されたものは対象外） 【実施場所】 川西市保健センターおよび委託契約を結んだ医療機関で実施する。 【実施時期】 特定健康診査の結果を受けて随時行う。
評価指標 目標値	【長期】令和6年3月末までに特定健診受診率を46%以上にすること。 【短期】特定健診受診率を毎年度1.7%上昇すること。	【長期】令和6年3月末までに特定保健指導実施率を37%以上にすること。 【短期】特定保健指導実施率を毎年度1.5%上昇すること。
受診率向上のための事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定健診未受診者への勧奨はがきの送付</li> <li>特定健診未受診者への電話勧奨</li> <li>人間ドック費用の助成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定健診および特定保健指導に関する啓発リーフレットの配布</li> <li>地域に出向いた特定健診と特定保健指導に関する受診勧奨</li> <li>食または運動に関するイベントを通じた、受診勧奨案内</li> </ul>

### 中間評価

課題	評価指標	目標値	ベースライン	経年変化	指標判定	課題と今後の方向性
特定健診受診率の向上	特定健康診査受診率 (法定報告値)	【長期】 令和6年3月末 46% 【短期】 毎年度 1.7%上昇	平成28年度 34.3%	H29 35.3% H30 35.4% R1 35.0%	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定健診受診率は平成27年度以降ほぼ横ばいで低い状況が続いており、受診率の低い男性へのアプローチなど、受診率向上に向けたより一層の施策に取り組んでいく必要がある。</li> <li>またコロナ禍において、より一層健診が重要であることや、医療機関等は感染防止対策が徹底され、安全に受診できることをPRする必要がある。</li> </ul>
特定保健指導実施率の向上	特定保健指導実施率 (法定報告値)	【長期】 令和6年3月末 37% 【短期】 毎年度 1.5%上昇	平成28年度 26.8%	H29 24.7% H30 20.7% R1 24.2%	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定保健指導実施率は平成27年度から平成30年度にかけて低下していたが、令和元年度は上昇し24.2%となっており、平成30年度20.7%と比較すると3.5ポイント上昇している。今後も引き続き、対象者全体の約7割を占める60歳以上を中心に、全ての特定保健指導対象者に対して、保健指導の重要性の周知や実施率の向上に向けた施策を実施していく必要がある。</li> </ul>

判定区分 A:達成できている B:達成できていない・改善が必要 C:事業継続が困難 D:評価不能

課題1・課題2に係る個別保健事業の評価

< 特定健診未受診者への勧奨はがきの送付 >

事業内容

具体的内容	<p>【対象者】 当該年度およびその前年度のどちらも特定健診未受診の人</p> <p>【実施者】 国民健康保険課</p> <p>【実施方法】 特定健診の必要性や受診方法を記載した受診勧奨はがきを送付する。</p>
評価指標 目標値	<p>【アウトプット】 はがきを送付した人の受診率30%</p>

評価と見直し・改善案

事業名	目標値	ベースライン	経年変化	事業判定	要因 (うまくいった・うまくいかなかった要因)	課題と今後の方向性
特定健診未受診者への勧奨はがきの送付	はがきを送付した人の受診率30%	-	H30 9.2% (1,165/12,725) ※ R1 9.5% (1,189/12,552)	B	<p>【うまくいかなかった要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特定健診の必要性や受診方法を記載したはがきを送付したが、対象者全員一律の内容だったため訴求力が低かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度より、通知内容について4パターン作成し、対象者の特性にあわせて送り分けを行うことで勧奨効果を高め、今後もパターン分けをしたはがきを送付する。</li> <li>はがき受け取り後の相談や問い合わせにこたえるため専用ダイヤルを設け、コロナ禍で受診をためらっている人などにもきめ細かく対応する。</li> </ul>

※受診した人／はがきを送付した人

判定区分 A:達成できている B:達成できていない・改善が必要 C:事業継続が困難 D:評価不能

課題1・課題2に係る個別保健事業の評価

< 特定健診未受診者への電話による勧奨 >

事業内容

具体的内容	<p>【対象者】 当該年度およびその前年度のどちらも特定健診未受診の人</p> <p>【実施者】 国民健康保険課</p> <p>【実施方法】 特定健診の未受診者に対して電話による勧奨を行う。</p>
評価指標 目標値	<p>【アウトプット】 電話がつながった人の受診率30%</p>

評価と見直し・改善案

事業名	目標値	ベース スライ ン	経年変化	事業 判定	要因 (うまくいった・うまくい かなかった要因)	課題と今後の方向性
特定健診未 受診者への 電話による 勧奨	電話がつな がった人の 受診率30%	-	H30 13.5% ( 81/602) ※  R1 15.6% (158/1,013)	B	<p>【うまくいかなかった要 因】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「時間の都合がつかない」「今は健康だから」といった未受診理由が多く、理由にあったアプローチが必要である。</li> <li>・電話勧奨を平日に行ったので、電話がつながらないことが多かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土日に出張健診を実施するなど、受診の機会を増やす。また、40歳になる前年度に案内文書を送るなど、健診の重要性をPRする方法を検討する。</li> <li>・平日の夜や土日にも電話勧奨を行う。</li> <li>・委託先の保健師等の専門職が電話勧奨を行い、被保険者の健康状態や生活環境に応じた健診の必要性を説明する。</li> <li>・令和3年度からは特定保健指導未利用者に対する電話勧奨も行う。</li> </ul>

※受診した人／電話がつながった人 (R1の数値は納税呼びかけセンターからの受診勧奨架電件数を含む)

判定区分 A:達成できている B:達成できていない・改善が必要 C:事業継続が困難 D:評価不能

#### 課題4 糖尿病性腎症重症化予防

目的	重症化を予防し、人工透析への移行を阻止する。 生活習慣の改善が必要な対象者や医療機関への通院が必要な対象者に、適切に情報提供を行う。
課題	【糖尿病性腎症重症化予防】 人工透析患者のうちⅡ型糖尿病起因の患者が存在する。 早期に保健指導を行い生活習慣を改善することで、糖尿病性腎症の悪化を遅延させる必要がある。
評価指標目標値	【長期】 糖尿病未治療者や治療中断者が減少すること。 【短期】 HbA1cが6.5%以上の人の割合が毎年度0.2%減少（特定健診受診者で血圧・脂質・血糖の3疾患の治療がない人が対象）
事業	・糖尿病重症化予防プログラム ・かわにし健幸れすとらん

#### 中間評価

課題	評価指標	目標値	ベースライン	経年変化	指標判定	課題と今後の方向性
糖尿病性腎症重症化予防	-	糖尿病未治療や治療中断者が減少すること	-	H30 56人 (未治療 41人) (中断者 15人)  R1 44人 (未治療 27人) (中断者 17人)	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未治療者、治療中断者にきめ細かい保健指導を実施する必要がある。</li> <li>・特定保健指導未利用者に利用勧奨を行い、保健指導を実施する必要がある。</li> </ul>
	HbA1cの値(6.5%以上の人の割合)	毎年0.2%減少	平成29年度 8.0%	H30 8.4%  R1 8.8%	B	

※カッコ内人数はプログラム参加者数

判定区分 A:達成できている B:達成できていない・改善が必要 C:事業継続が困難 D:評価不能

## 課題4に係る個別保健事業の評価

### <糖尿病重症化予防プログラム（未治療者及び治療中断者に対する受診勧奨）>

#### 事業内容

具体的内容	<p>【対象者】</p> <p>①HbA1cが6.5%以上で血圧・脂質・血糖の3疾患の治療がない人（未治療者）</p> <p>②糖尿病の治療歴があるが現在は治療を中断していると思われる人（治療中断）</p> <p>【実施者】</p> <p>①国民健康保険課</p> <p>②委託業者：株式会社データホライゾン</p> <p>【実施方法】</p> <p>対象者に対して、通知や電話等を通じ、医療機関への受診勧奨を行う。</p> <p>勧奨した対象者の後追い調査を行い、医療機関への受診状況確認および受診率の分析を行う。</p>
評価指標 目標値	<p>【アウトプット】</p> <p>・医療機関への受診につながった割合50%</p>

#### 評価と見直し・改善案

事業名	目標値	ベースライン	経年変化	事業判定	要因 (うまくいった・うまくいかなかった要因)	課題と今後の方向性
糖尿病重症化予防プログラム (未治療者・治療中断者)	勧奨後の医療機関への受診率 50%	-	<p>【未治療者】</p> <p>H30 54% (22/41) ※</p> <p>R1 30% (8/27)</p> <p>【治療中断】</p> <p>H30 40% (6/15)</p> <p>R1 52% (9/17)</p>	B	<p>【うまくいかなかった要因】</p> <p>・事業の対象者全員に受診勧奨通知を送付し、電話による勧奨を行っているが、電話番号が不明な人や不通の人にはそれ以上のアプローチができていない。</p>	<p>・受診勧奨通知の送付や電話勧奨に加え、保健師などによる訪問も実施し、重症度に応じた勧奨を行うなど、よりきめ細やかな勧奨を行う。</p> <p>・より糖尿病性腎症に焦点を当てた事業を行うために、県の基準と同基準を用いた対象者抽出を行う。</p>

※受診者/事業対象者

判定区分 A:達成できている B:達成できていない・改善が必要 C:事業継続が困難 D:評価不能

## 課題6 がん早期発見による重症化予防

目的	がんの早期発見により重症化を抑え、がん治療に係る医療費増加率を抑制する。
課題	【がん早期発見による重症化予防】 疾病別統計に目を向けた際、医療費、患者一人当たりの医療費ともに「悪性新生物<腫瘍>」が上位となっている。早期発見により重症化を予防することでがんにかかる医療費を減少させていく必要がある。
評価指標目標値	がん検診の受診率が対前年度比で増加すること
事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーフレットの送付による、がん検診受診勧奨</li> <li>・がん検診の無料化</li> </ul>

### 中間評価

課題	目標値	ベースライン	経年変化	指標判定	課題と今後の方向性
がん早期発見による重症化予防	がん検診の受診率が前年より上昇すること	H29 14.5% ※	H30 14.2% R1 13.6%	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん検診の受診率（被保険者数に対する助成人数）を上げるために、検診の重要性や助成制度をより分かりやすい内容で周知広報を図る必要がある。</li> <li>・コロナ禍においてより一層検診が重要であることや、医療機関等は感染防止対策が徹底され安全に受診できることを周知する必要がある。</li> <li>・忙しくて受けられないといった人のために、各がん検診を一日で受診できる機会を設けたり、受診機会を増やす。</li> <li>・大分類による疾病別医療費統計をみると、「悪性新生物&lt;腫瘍&gt;」の医療費が全体の17.3%を占める。また、中分類による疾病別医療費統計でも医療費第1位が「その他の悪性新生物&lt;腫瘍&gt;」となっており、引き続き、がんにかかる医療費の抑制に取り組んでいく必要がある。</li> </ul>

※がん検診助成人数/各年度3月末の年齢別被保険者数

判定区分 A:達成できている B:達成できていない・改善が必要 C:事業継続が困難 D:評価不能

課題6に係る個別保健事業の評価

<がん検診受診勧奨>

<p>具体的内容</p>	<p>【対象者】 40歳以上の国民健康保険被保険者</p> <p>【実施者】 国民健康保険課</p> <p>【実施方法】 特定健診受診対象者へのリーフレットに、がん検診費用の助成について記載し、受診勧奨を行う。また、がん検診の受診機会の拡大を図る。</p>
<p>評価指標 目標値</p>	<p>がん検診の受診率が前年より上昇すること</p>

評価と見直し・改善案

事業名	目標値	ベースライン	経年変化	事業判定	要因 (うまくいった・うまくいかなかった要因)	課題と今後の方向性
がん検診受診勧奨	がん検診の受診率が前年より上昇すること	H29 14.5% ※	H30 14.2% R1 13.6%	B	<p>【うまくいかなかった要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和元年度から出張特定健診と同日実施したがん検診は、市内で受診できる医療機関の少ない乳がん検診のみとしたため、その他のがん検診の受診率向上にまでつなげられていない。</li> <li>リーフレット送付による受診勧奨のみで、個別の勧奨ができていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>出張特定健診と同日に各がん検診が一日で受診できる機会を設ける。</li> <li>協会けんぽが市内で実施する被扶養者向け健診会場で国保被保険者もがん検診を受診できるようにする。</li> <li>コロナ禍における検診の重要性や安全性をリーフレットなどで周知する。</li> <li>特定健診未受診者への電話勧奨時にがん検診の受診勧奨も行う。</li> </ul>

※がん検診助成人数/各年度3月末の年齢別被保険者数

判定区分 A:達成できている B:達成できていない・改善が必要 C:事業継続が困難 D:評価不能